

フクシマ原発事故から9年！

さようなら原発！十勝集会

- **日時** 2020年3月10日(火) 18:30~20:00
- **場所** 帯広労働者会館 2階 A会議室
(東3条南11丁目7)



講演 「幌延深地層研究期間の延長は許されない」

講師 久世 薫嗣 さん

(核廃棄物施設誘致に反対する道北連絡協議会)

昨年8月2日、日本原子力研究開発機構・幌延深地層研究センターから北海道と幌延町に対し「令和2年度以降の幌延深地層研究計画(案)」が提出されました。

道は、短期間の中で「確認会議」を5回開催し、道民から12月5日までの意見募集をしていたにもかかわらず、翌6日に原子力機構児玉理事長と会談し容認を判断し、10日には「研究計画(案)」の容認を表明しました。

そもそも、幌延深地層研究は、1998年の「深地層研究所(仮称)計画」にある「全体の研究期間は20年程度」という研究期間を前提に、「核抜き条例」や「三者協定」が締結されてスタートしました。

原子力機構は毎年の説明会においても「全体の研究期間は20年程度。程度とは2・3年」とっており、「研究期間20年程度」は道民との約束であり、研究計画延長の提案そのものが認められるものではありません。

原子力機構は、まず約束どおり今年度中に研究期間終了と埋め戻しの時期を示すのが先決です。しかしながら、過去の経過や道民との約束を軽視する研究計画延長の提案は、さらなる延長も可能となるなし崩し的な「無期限」延長であり、最終処分場になるという道民の不安を募らせるものでしかありません。

また、確認会議でも研究計画延長の「必要性」「妥当性」「三者協定との整合性」は不透明なままで「なぜ延長するのか」「いつまで延長するのか」が明確にされていません。さらに、北海道は道民の声などを聞いたうえで判断すると言いながら、北海道としての意思決定のプロセスやスケジュールを明らかにしてきませんでした。そして、短期間の中で確認会議を5回開催し、道民から12月5日までの意見募集を行いました。

しかし、その意見に対する北海道としての考え方も示さないまま、6日に原子力機構児玉敏雄理事長と会談し容認を判断した行為は、延長ありきのアリバイ的な「確認会議」「意見公募」でしかなく、民主的な北海道としての意思決定とは到底言えるものではありません。

私たちは、引き続き、「核のゴミ」の地層処分に反対し、「早期の深地層研究の終了」を求めるとともに、幌延をはじめ道内すべての自治体において高レベル核廃棄物最終処分場の受け入れを拒否するたたかいをすすめることが重要です。

■主催団体： **さようなら原発！1000万人アクション十勝実行委員会**
事務局：平和運動フォーラム 問合せ0155-22-4334